

# 碩 心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可  
 神奈川 碩心 会 発行

11年9月現在 逗子地区 葉山地区 大会計	会員数 130名 184名 31名 345名	11年9月 (326号) 発行者 千葉岳関 編集者 白井岳麗
--------------------------------	------------------------------------	--------------------------------------

## 行事予定

- 大船地区温習会決定 当番(大船地区)  
日時・12月4日(土)  
会場・逗子市図書館ホール 3階
- 神奈川県本部創立45周年記念吟道大会  
日時・11月21日(日)  
会場・横須賀芸術劇場大ホール  
碩心会より当日の役員は左記の通りです。  
(敬称略)
- 大会総務 加藤岳相、千葉岳関、中村岳愛  
受付 立澤御岳  
進行 上村岳章、松井正岳  
会場 一柳良岳  
接待 磯村朋岳、森晴岳、星野輝岳  
村井知岳、根岸啓岳、鈴木賢岳  
口訳(表彰) 中村岳郵  
記録係(広報) 矢嶋岳悦  
会 計 加藤岳洵  
○構成吟に左記の方々が出演します。  
俳句 正岡子規 上村岳章  
漢詩 城ヶ島 松井正岳  
詩舞 三組(プログラム順)  
佳香会、京愛会、紫舟流紅舟会

- 上席師範取得 (平成11年7月1日付)  
千葉岳関  
加藤岳洵  
(碩心月報7月号にて既報)
- 総伝位取得予定(平成11年11月1日付)  
渡辺賢二 岳心  
舟渡三郎 岳船  
佐久間貞子 岳爽  
内山俊夫 岳青  
磯村朋子 岳朋  
県45周年記念大会にて許証を授与されます。  
○神奈川県本部総伝吟道大会  
日時・10月24日(日) 午後1時より  
場所・横須賀市商工労働会館
- 第33回葉山町文化祭 三曲と詩吟詩舞の会  
日時・11月3日(祭) 10時より  
場所・葉山町文化会館ホール
- 鎌倉市詩吟詩舞連盟(碩心会参加)  
日時・11月7日(日) 10時より  
場所・鎌倉市大船芸術館 小ホール
- 横須賀市詩吟連盟 (碩心会参加)  
日時・11月7日(日)  
場所・横須賀文化会館

## 秋の審査会行わる

許証部 上村 岳章

去る9月5日(日)逗子図書館ホールにて神奈川県本部横須賀第二地区長加藤岳心先生をお迎えして行われました。

72名中61名が受審され、追試で2名追加合計63名の方が合格されました。

昇伝認許される方々 (10月1日付)

(初 伝)

490 前田宏道 (宏泉) 487 角田勝彦 (玲泉)  
486 大野一郎 (祥泉) 485 山盛和子 (暉泉)

526 鎗光和博 (幸泉)

(中 伝)

453 鈴木豊子 (豊山) 450 福田喜枝子 (喜山)  
449 有友嘉紀 (嘉山) 435 小島和三 (和山)

432 有馬昌子 (昌山) 431 長谷川末子 (瑛山)

429 鈴木裕子 (笙山) 423 鈴木幸子 (聰山)

379 上村優子 (奏山)

(奥 伝)

352 田中範子 (玉風) 351 渡辺信代 (信風)

347 小峰一子 (美風) 337 渡辺恵子 (恵風)

325 堤 寿子 (寿風)

おめでとうございませす。ますますのご活躍を。

総本部主催

## 青少年育成の為の研修会参加

青少年部 上村 岳章

8月21日(土)横浜駅西口「かながわ県民活動サポートセンター」にて行われ、千葉県長と共に参加致しました。

会議は午後12時半より行われ総本部理事長長谷川先生臨席の下、神奈川県地区県本部長立平先生の挨拶に続き、総本部事務局長芹澤先生からの出席者への感謝の意がのべられ青少年育成部長本原先生の趣旨説明があり、青年のための教本「若あゆ」「わかあゆ」についての説明がありました。

そのあと各グループに別れて今回の目的について話し合いが行われ、苦労話やエピソードなど会員から活発な意見が出されました。現在碩心会には少年にあたる中学生以下の会員が一人もない状態になっております。「若あゆ」「わかあゆ」の教本を今、指導者の間で回覧をしております。

是非お孫さんや、お子さんに見せて頂き、青少年会員の拡大にご協力をお願い致します。

## 一生の思い出「和歌歌詠の儀」

一色 岸本 里風

戦時中充分な勉強も出来ぬまま結婚、子育て、その後奉仕の仕事につき定年迄忙しく過しました。人生の折返し点に詩吟の会のある事を聞き、吟の何たるも知らず唯漢詩に触れてみたい思いから入会させて頂きました。

当地に移住し長年経ても近所との交流しかなかったのですが、会の皆様との気の置けぬお付き合いで、やと葉山人の自覚も生れました。守谷岳琅先生ご担当の初心者組で感性豊かな、又自己よりも他の幸せを願われる温いお人柄と研究熱心なお導きで漢詩の他、種々の文学作品にも親しむ事が出来ました。

素読により正しいアクセントを掴むこと、詩文の背景まで思いを巡らせ作者の心を心として感情を表現する吟を、又詩文上学んだ人の道を外さぬ様に等、噛んで含めるお教えに、拙いながら楽しく学び続けております。

今年の森山神社祭礼に先生の歌詠せよとの思いがけぬお話に柄でもないご辞退したところ、一生涯中々出来ぬ経験だからと論され先生のしみじみした素晴らしいお歌に

打たれお引き受け致しました。

松籟にとぎれとぎれの村囃子

想いを遠き日々に誘いて 守谷岳環

さて当日、尺八との音合せの時からドキドキの連続で、楽にしてとのお言葉にも生来気が小さく声量もない私です。いよいよ本番、敵かな神殿で、先生方は流麗に朗詠されます。

その間深呼吸を続けましたが胸の動悸はおさまらず、最後は私の番で詠じはじめたのですが歌詞を持つ手の震えが止まらず、声の震えをカバーしようとテンポも早まった様です。折角の先生のお歌を台無しにしたと臍をかみましたが、これこそ後の祭り。何人かの方に慰められ私の実力の程と思い、やつと肩の荷がおりました。今まで知らなかった葉山の優雅な行事に参加させて頂いた事は一生の思い出となり、これも詩吟を習ったお陰と深く感謝いたしました。

○高齡の守谷先生のご指導が少しでも長く続きますよう祈るこの頃でございます。

○歌の祖の神の宮居に心こめし

献歌の朗詠ゆつたりと響く 岸本里風

○神前に師の御歌吾の詠ぜしを

彼岸の夫へ家苞にせむ(家苞<sup>いさうと</sup>土産)

## 中国路上観察者の旅

東伏見支部 森 合 敬 山

中国を旅して感ずることの一つは、各都市のホテルの設備が年々良くなっていること、地方も含めて、日本と殆ど変わらない。飯店、賓館、大厦、酒店の名に更に大の字のつくところ、流石文字の国だけあって賑やかな名称ではある。地方都市のホテルに着いて部屋割りも決まり、ドアを開けて窓外を眺める一瞬は何時もながら楽しみである。往き来する物売りの車、洗濯物、老人の散歩姿、夕方ならば懐かしい日本の戦前の町の雑踏を想いださせるさわめき……。そのとき大分前のことだが部屋の机の上に珍しい日めくりカレンダーを見出したことがある。漢詩に出てくる昔の涼州(今の武威市)への旅。古くなった仙花紙のペラペラには一九九四年六月とある。

下の方に王羲之(東晋の書法家)とあり、肖像画もついている。フムフム中国の日めくりは格調が高いワイと感心して裏を見ると、抗癌食物拾零とあり、益々興味をもって判読。(いわゆる簡体字化された現代文字である)そこには太文字で菜花、黄豆、大蒜(ニンニ

ク?)茄子、緑茶、大枣(ナツメ?)とあり大体消化器系などに抗ガン作用があると書いてあることが読めた。ところが一つ「夢ト」と書いてある食物がどうにも見当がつかない。まさか夢占いと読むのではなどと薄暗い電灯の下で思案した。珍らしい字もあるものだ。オヤ糖化酵素と書いてあるゾ……。翌朝早速現地の添乗員の女性に聞いてみたら、彼女はニッコリ笑っていわく「日本語で大根のことですよ」とのこと。

その後中国旅行を何回か重ねているが、懐かしい日めくりカレンダーに出逢った例はない。情報化の忙がしい時代のテンポに見放されたものと見える。

子供の頃、日本のどの家庭にも日めくりカレンダーは吊してあった。吉兆占い、星運、農作物の種播きどき、古今の名言などを書き込んだものもあった。毎朝子供が背伸びして日めくりを用心深く一枚ビリビリと破つてゆくのを見つめて、その日一日が始まったものだ。中国の旅では昔の日本を思い出させてくれる、小物に出合うことが楽しみの一つとなっている。

## 昇段審査を受けて

堀内E 有馬昌山

9月12日(日)は昇段審査です。朝から良く晴れており、初段の審査を受けた当日は台風で大変だったことが思い出されました。

今日は落着いて審査が受けられますようにと念じながら図書館ホールへ向いました。

私達の中伝はホールでしたがマイクを使つて受ける審査は初めての経験です。緊張して心配なことは詩文を忘れそうなことでした。

いよいよ自分の番になった時、不思議と足はしっかりと床を踏みしめておりました。

中伝の課題「冑山の歌」と「山ざくら」を吟じましたが、五言の吟じ方はむずかしいものと改めて感じるどころでした。

最後に講評があり「五言の落とし方」と、「お腹から声を出す」練習をするようにとご注意がありました。私も出来ていないことなので、これからの練習課題としてがんばろうと思います。又明日から先生はじめ先輩方のご指導のもとで、笑声のある楽しいお教室で一步でも前進できるように努力したいと思います。

## うたの博物誌より

白井岳麗

幼い頃、どなたも口ずさんだことのある、童謡、この歌にまつわる記事が回覧「老友会便り」の中に載っております。題名は解りませんが「サイタ、サイタ、チューリップの花が、ナランダ、ナランダ、アカ、シロ、キイロ、ドノハナミテモキレイダナ」これは歌の一番で、実は花言葉があつたのです。

色により赤は情熱、白は失恋、黄色は空しい愛と個性的な花言葉がつけられているそうです。贈り物にする時は、良く考えて贈つて下さい。誤解を招かぬように……。

実はこの歌の二番、三番を昭和30年に作曲家井上武士氏によって、歌詞が作られました。があまり普及せず、一番の作者は長い間不祥とされていましたが、平成5年裁判によって近藤宮子氏が作詞者と認められました。



(入会)

509 森田祐子 逗子市桜山五―三五―十三

(真澄) エスコートパレス桜山201

☎〇四六八―七二―六九九八

510 草柳スミ 逗子市桜山七―十一―十四

(堀内E) ☎〇四六八―七三―一九六四

(退会)

112 石戸倫岳 (堀内D)

### 編集後記

台風の影響で降ったり止んだり雨に蒸し暑いこの頃ですが、早速秋季審査会から幕明けとなり、いよいよ文化の秋の行事も盛り沢山です。

昔の暦には種播き、取り入れなど記されてありました。季節の新しい野菜にふれたり、花を楽しんで心ゆとりのようなものがありました。今は十五夜すら何日かしらと人に尋ねる始末。今年は9月24日(金)だそうです。子供の頃からスキ、団子、栗、果物を供えた芋明月。十五夜の月見は情緒的な行事として十三夜と併せ、後々の世に伝えたいもの一つです。澄んだ夜空の月や、星を眺めると一日毎に輝きが増して何かを語りかけるようにその光を見せてくれます。